S I A S R （SaitamaInfectious Agents Surveillance Report）

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2003)

2003 年の 11 月までに、埼玉県で分離された腸管出血性大腸菌は 82 株(他県届け出分を含む)でした。月別の分離株数で見ると、2 月、3 月を除いて毎月分離されており、例年どおり夏期に多い傾向がみられました。血清型はＯ 157 が最も多く、Ｏ 157：Ｈ７が 68 株(82.9%)、Ｏ 157：Ｈ－が 2 株（2.4%)、次いでＯ 26：Ｈ 11 が 10 株(12.1%)、その他が 2 株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2003 年 1 ～ 11 月)

血清型	毒素型	検出数	家族内感染事例数
Ｏ 157：Ｈ７	VT1&2	43	7
Ｏ 157：Ｈ７	VT2	25	4
Ｏ 157：Ｈ－	VT1&2	2	
Ｏ 26：Ｈ 11	VT1	10	3
その他		2	
合計		82	14

衛生研究所では、分離された腸管出血性大腸菌について遺伝子解析(PFGE パターン型別)を行っています。2003 年分離株は、Ｏ 157：Ｈ７(VT1&2 産生)43 株が 25 パターン、Ｏ 157：Ｈ７(VT2 産生)25 株が 14 パターンと多様なパターンを示し、特定パターンによる集積性はみられませんでした。2003 年は、家族内感染例が 14 例ありましたが、患者発生に伴う家族検便で、無症状の家族全員から菌が検出された例もありました。また、7 月にユッケを喫食したＯ 157：Ｈ７（ VT1&2 産生）患者が東京都と埼玉県で１例ずつ報告されました。この２名の患者分離株の PFGE パターンが一致し、ユッケを原因とする複数の患者発生の可能性が示唆されましたが、食品からは菌の検出はなく、汚染源の特定には至りませんでした。

今後も、感染症が発生した際の原因究明調査等へのご協力をお願いします。